

あむろ 農村集落部門：阿室校区活性化対策委員会（宇検村）

1 地区の概要

奄美大島南西部に位置する宇検村は、深い入江の焼内湾の沿岸を取り囲むように集落が点在しており、その入り江は天然の良港として知られ、90%以上を占める森林にはアマミノクロウサギをはじめとする貴重な動植物が生息している。

阿室校区は、役場のある湯湾校区から沿岸に沿って車で約40分を要し、村内でも南西の湾の入り口に位置し、平田、阿室、屋鈍の三集落からなる。

タンカンや露地野菜が基幹作物であるが、人口216人（戸数109戸）、65歳以上が86人を占め、過疎化率39.8%と過疎・高齢化の進んだ農村地域である。

2 むらづくりの主な内容

学校存続に向けて設立された阿室校区活性化委員会は、I・Uターン者も構成員として地域一丸となり、地域営農の維持や地域資源を活用した特産品開発など、幅広いむらづくり活動に計画的に取り組んでいる。

農村集落の再生

阿室校区では、近い将来学校の存続が難しい状況になることを見据え、地域の今後を検討した結果、平成21年度に阿室校区活性化委員会を設立し、親子山村留学に取り組むこととした。親子山村留学をきっかけに徐々に増加するI・Uターン者の雇用・就労先を確保するため、農業の基盤強化に向け、農地の集積や農地保全など、集落ぐるみで知恵を出し合い、持続可能な活動体制や営農環境整備に取り組むなど、I・Uターン者の受け入れを契機とした地域活性化を目指している。

多様な主体との連携

- ・ 耕作放棄地を活用して集落ぐるみで在来種のニンニクを生産し、高齢者の技術を活かして加工を行い、商品化に繋げ地域経済の活性化に寄与
- ・ I・Uターン者等による共同防除班を設立し、高齢者のタンカン園等の労力補完への取組。
- ・ NPO法人環境教育推進協議会やU・Iターン者と連携して、地域資源の掘り起こしなどの検討を進め、特産品開発に向けた取組。
- ・ 農協観光と連携して、農業体験を行う「援農隊」を受け入れ、都市農村交流を行った。
- ・ タンカンの収穫作業の軽減や地域農業の理解促進を目的に、子供から高齢者まで参加して地域活動の一環として収穫体験イベントを実施している。

新たなむらづくりの形成、むらづくりの維持・発展

- ・ 山村留学の推進や地域農業の発展などを目的に委員会の組織体制を見直し、企画班、農業班を設け、役割分担し協働体制を整えた。

- ・ 高齢農家が主体であったニンニクの生産・加工にIターン者が加わったことにより、一定量の生産が確保され、直売所等へ安定して供給できる体制ができた。さらに、島外の企業との取引が始まるなど販路拡大が図られている。
- ・ I・Uターン者が中心となり設立した「あおぼとカンパニー」と連携して、島ニンニクやタンカン、ボタンボウフウなど地域資源を活用したコミュニティビジネスや農産物の集出荷システムを整備した。
- ・ I・Uターン者等の担い手農家で「共同防除班」を設立し、高齢農家のタンカン園の労力補完を行い、耕作放棄地の発生防止だけでなく、担い手農家に1.2haの農地が集積され、担い手農家の育成につながった。
- ・ 親子山村留学への取組

3 今後のむらづくりの方向性

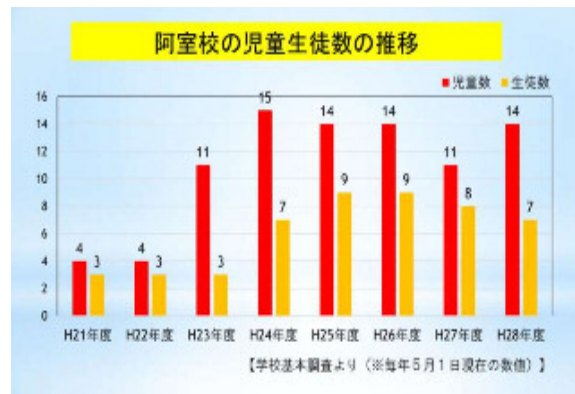
地域活動の新たな体制づくりや地域資源を生かした特産品開発、耕作放棄地の解消などに取り組み、更なる発展に向けて様々な知恵やアイデアが出されているところである。

このような前向きな意見を踏まえて、計画的に無理なく楽しく活動を展開し、集落全体での経済活動や若い世代が定住できる環境づくりのため、継続的にむらづくりに取り組んでいきたい。

<活動状況写真>



体験留学世帯との交流



児童生徒数の推移



地域ぐるみでタンカンの収穫作業



新たに始まった校区夏祭り